

歯科開業医の談話室

01 上顎無歯顎印象採得

- 02 下顎無歯顎印象採得
- 03 日本人用無歯顎既製トレー
- 04 総義歯の難症例
- 05 クラスプと間接維持装置の配置
- 06 直接維持装置の設計
- 07 間接維持装置の設計
- 08 鉤歯の歯冠形態改造
- 09 大連結子の設計
- 10 根尖まで根管充填する方法
- 11 感染根管のプレパレーション
- 12 歯内療法用器具の操作方法
- 13 歯内療法器具の根管内破折防止
- 14 下顎孔伝達麻酔方法
- 15 歯科医師のための患者情報書類の書き方
- 16 半調節性咬合器の模型マウント方法
- 17 咬合理論
- 18 顎関節症

- 19 咬合病
- 20 変形性顎関節症
- 21 外側翼突筋の障害
- 22 円板後部組織の障害
- 23 中心位
- 24 中心位の採得方法
- 25 不正咬合
- 26 咬合分析
- 27 咬合調整
- 28 咬合調整のための診察・診断
- 29 咬合調整の方法
- 30 咬合調整の症例
- 31 咬合平面
- 32 咬合高径の理論
- 33 スマイルデザイン
- 34 アンテリアガイダンス
- 35 ロングセントリック
- 36 ブラキシズム
- 37 顎関節の雑音
- 38 オクルーザルスプリント
- 39 理想咬合



この談話室の記事に関係する著書を紹介します。
シエン社およびアマゾンにて購入できます。

上顎無歯顎印象採得

もくじ

1. 上顎無歯顎の解剖学的ランドマークとは
 2. 上唇小帯
 3. 唇側前庭
 4. 頬小帯
 5. 頬前庭
 6. 翼突上顎切痕(ハミュラーノッチ)
 7. 上顎結節
 8. 残存歯槽堤
 9. 口蓋小窩
 10. 口蓋後縁封鎖域
 11. 切歯乳頭
- 引用文献

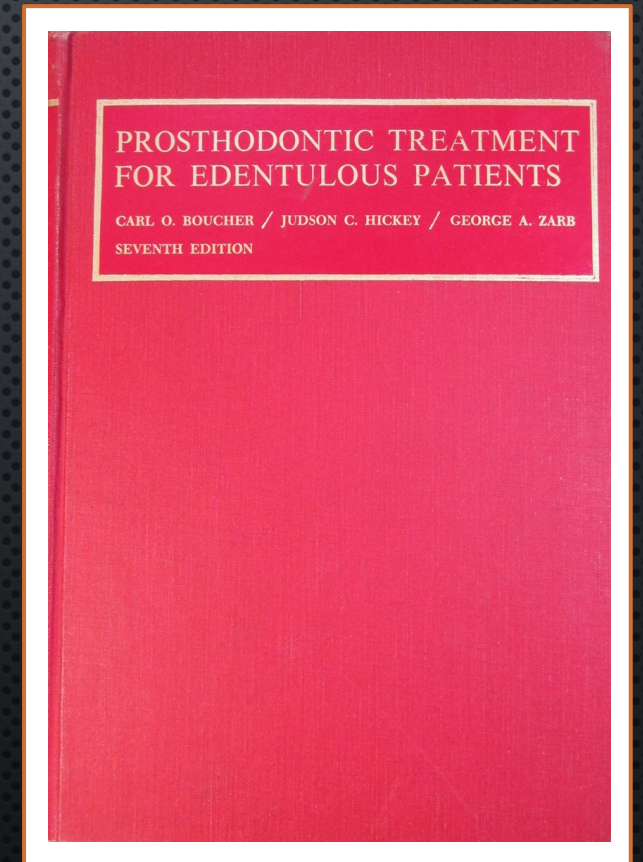


上顎無歯顎印象採得

1. 無歯顎顎堤の解剖学的ランドマークとは（1）

無歯顎顎堤の解剖学的ランドマークは、義歯床辺縁部が適合する粘膜翻転部の解剖学的根拠に基づく形態的特徴です。歯科医師は、そのランドマークを理解することにより、上顎の無歯顎顎堤の印象採得技術を飛躍的に向上させることとなります。

バウチャーは、右に示す著書の第7～8章50ページにわたって、上顎無歯顎解剖学的ランドマークの解説と上顎無歯顎印象採得の方法を紹介しております。



上顎無歯顎印象採得

1. 無歯顎顎堤の解剖学的ランドマークとは(2)

右の写真は、Boucherの著書の一部で、無歯顎顎堤と周囲組織の安静時と機能時の解剖学的形態と特徴、さらに、印象採得面とそれらの解剖学的所見を対比させて、上顎無歯顎の解剖学的ランドマークについて解説しているところです。

解剖学的ランドマークの形態と無歯顎顎堤印象採得の形態的特徴さらにその解剖学的根拠を理解することにより、歯科医師は、無歯顎印象面の過不足を評価することができ、義歯が顎堤に適合する上で過不足が無い適切な無歯顎顎堤の印象採得を行うことができます。

次に、それぞれの解剖学的ランドマークについて解説します。

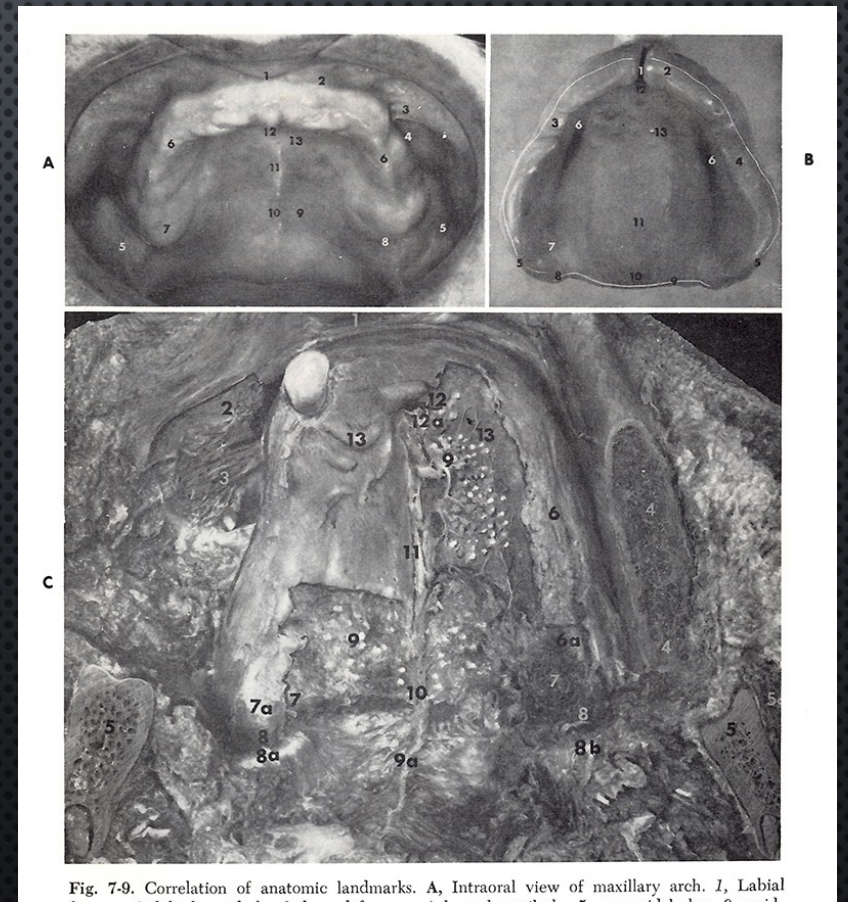
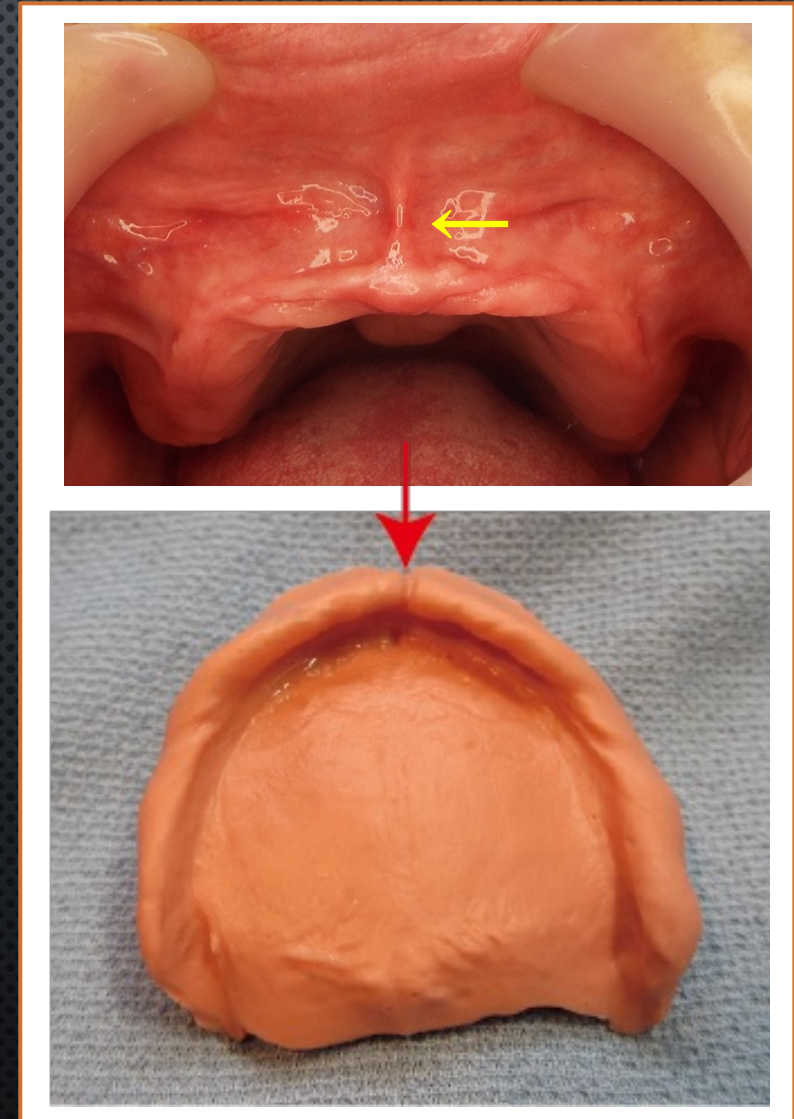


Fig. 7-9. Correlation of anatomic landmarks. A, Intraoral view of maxillary arch. 1, Labial frenum; 2, Labial sulcus; 3, Labial frenum; 4, Labial sulcus; 5, Alveolar ridge; 6, Residual ridge; 7, Alveolar ridge; 8, Residual ridge; 9, Alveolar ridge; 10, Residual ridge; 11, Alveolar ridge; 12, Labial frenum; 13, Labial sulcus.

上顎無歯顎印象採得

2. 上唇小帯

上唇小帯とは、右上写真の矢印が示す、上顎口腔前庭の正中に位置するひだのことです。上唇小帯は、左右の動きが少ないことから、必要以上に印象面の幅を広げる必要はありません。しかし、上唇小帯は、慢性的圧迫により容易に傷つくことから、無圧状態で正確に印象採得する必要があります。具体的には、上唇小帯に相当するトレー辺縁部に十分なスペースを確保します。印象採得に際しては、口唇を前方に持ち上げて口腔前提の気泡を排除し、印象材が硬化する間は、口唇を緊張させることなくリラックスさせることが大切です。また「鼻の下を軽く伸ばして下さい」と指示して、適切な印象採得が可能になる場合があります。

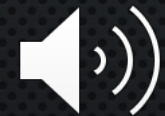
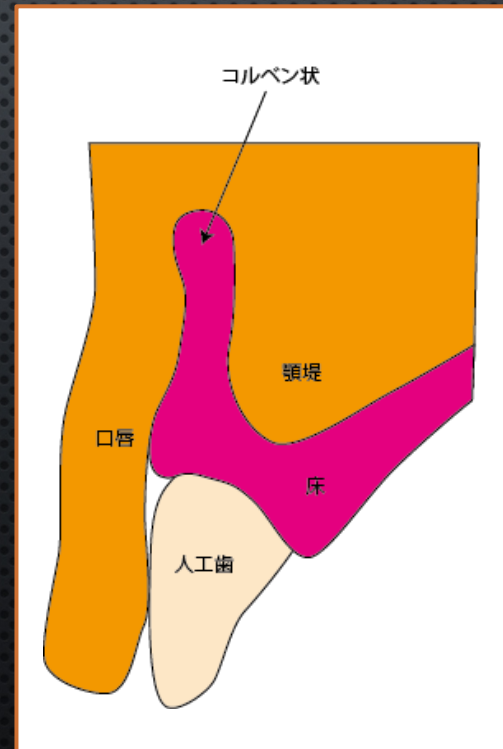
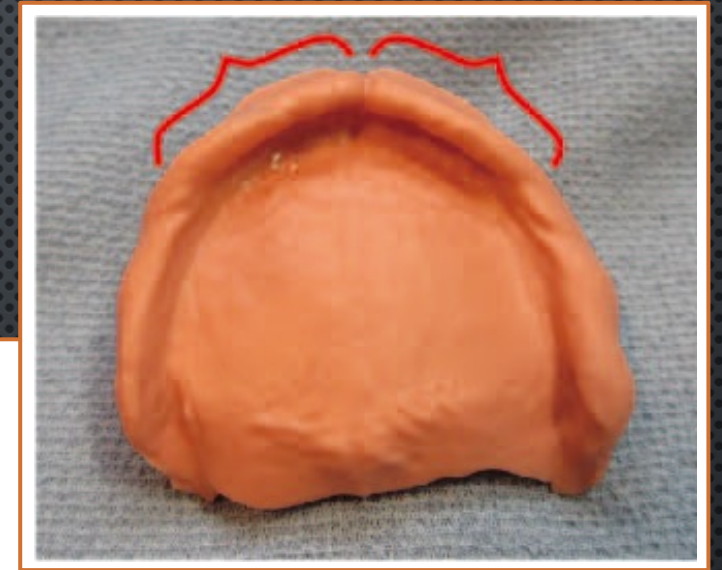


上顎無歯顎印象採得

3. 唇側前庭(1)

唇側前庭とは、右上写真の括弧が示す上顎口唇と前歯部顎堤との間のスペースのことです。この部分は、歯槽堤粘膜から口唇内側粘膜へと粘膜が移行的に反転し、この粘膜翻転部を形成しております。

この部分の粘膜翻転部の断面は、右下図に示すように、ある程度の厚みがあるいわゆるコルベン状となります。



上顎無歯顎印象採得

3. 唇側前庭(2)

このコルベン状の部分が厚すぎたり長すぎた場合、右写真が示すように、床辺縁部に相当する皮膚表面を指で触診することにより、床辺縁部の凹凸を指で確認できます。義歯床辺縁部が粘膜翻転部に適切に適合すると、この触診による凹凸が感じなくなります。床辺縁部が厚すぎたり長すぎる場合、義歯が外れやすくなり粘膜に潰瘍を形成することになります。

唇側前庭の最適な印象採得は、リラックスした口輪筋を義歯床が適度に支えた状態です。具体的には、患者さんに「口をかるくすぼめたままにしてください」と伝えることにより、適切な床縁の形態を印象採得することができます。

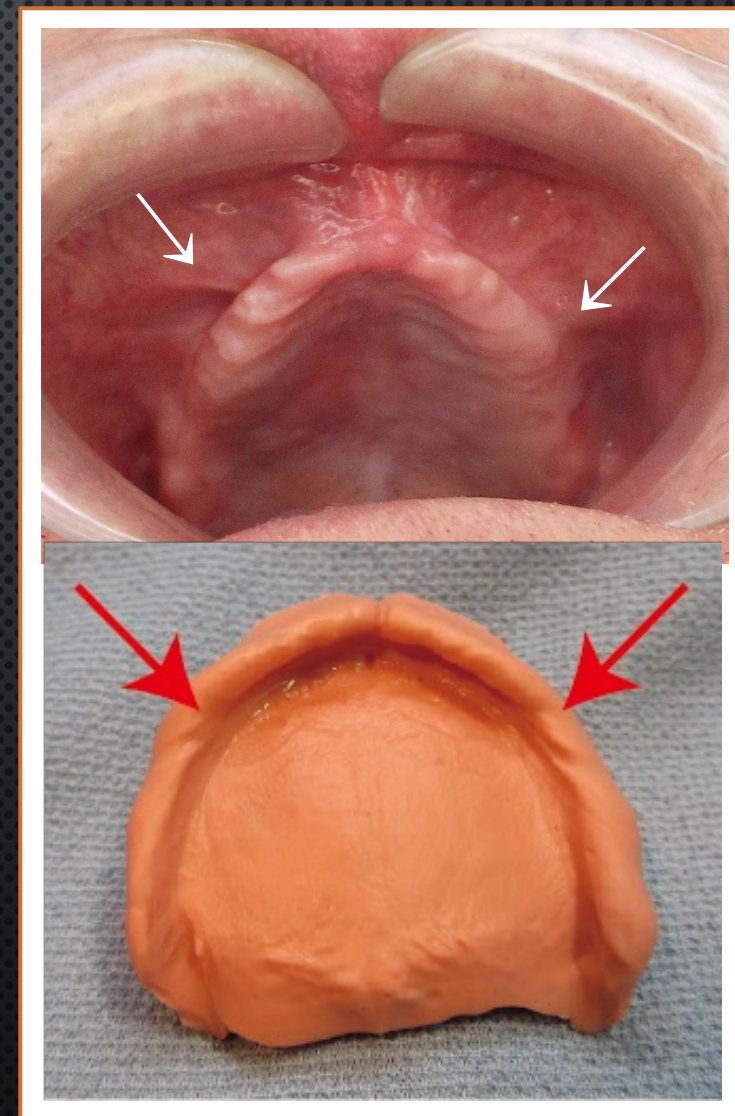


上顎無歯顎印象採得

4. 頬小帯

頬小帯とは、右上写真の矢印が示すように、上顎小臼歯部顎堤の頬側に位置するひだです。頬小帯は、頬筋の収縮により前後に動くため、この部分の筋形成は、頬小帯の動きを妨げないように、頬筋を収縮させた状態で行います。具体的には、モダイオラスを術者の手指により軽く前方に引くことにより頬小帯の動きを再現できます。

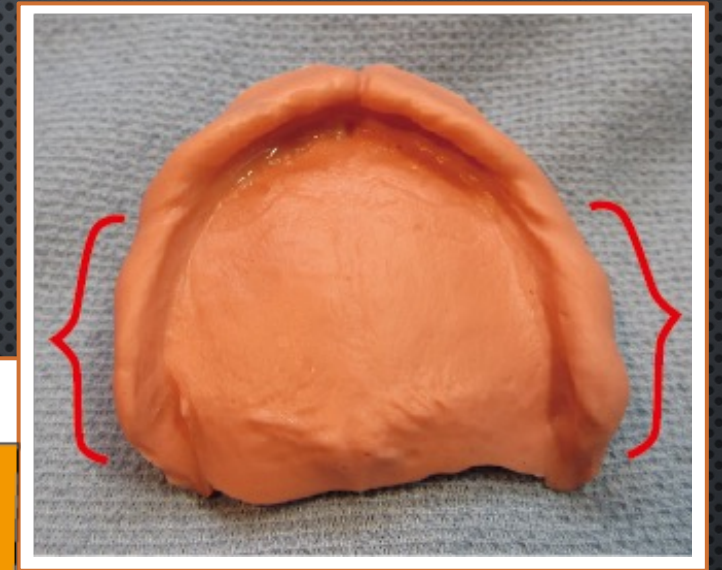
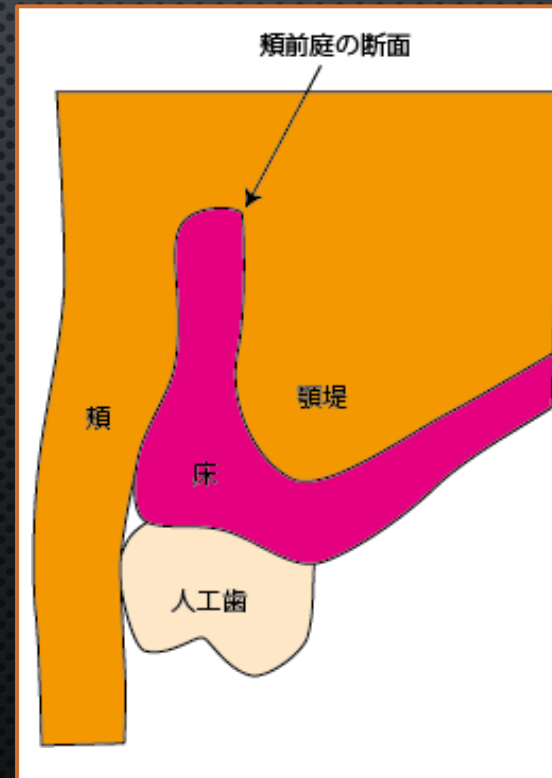
※モダイオラスとは、口角の遠心部に口輪筋などの表情筋が集まって形成される結節です。エクボの位置がそれに相当します。



上顎無歯顎印象採得

5. 頬前庭

頬前庭とは、右上写真の括弧が示すように、上顎大臼歯部顎堤の頬側に位置する頬小帯と翼突上顎切痕(後述)の間の溝です。頬前庭の外側は、上顎大臼歯部の歯槽部外面を起始とする頬筋に覆われております。頬筋は歯槽部外面に対してほぼ直角に起始していることから、右下図の矢印が示すように、頬前庭の断面は内側がコルベン状ではなく直角に近い形態になります。



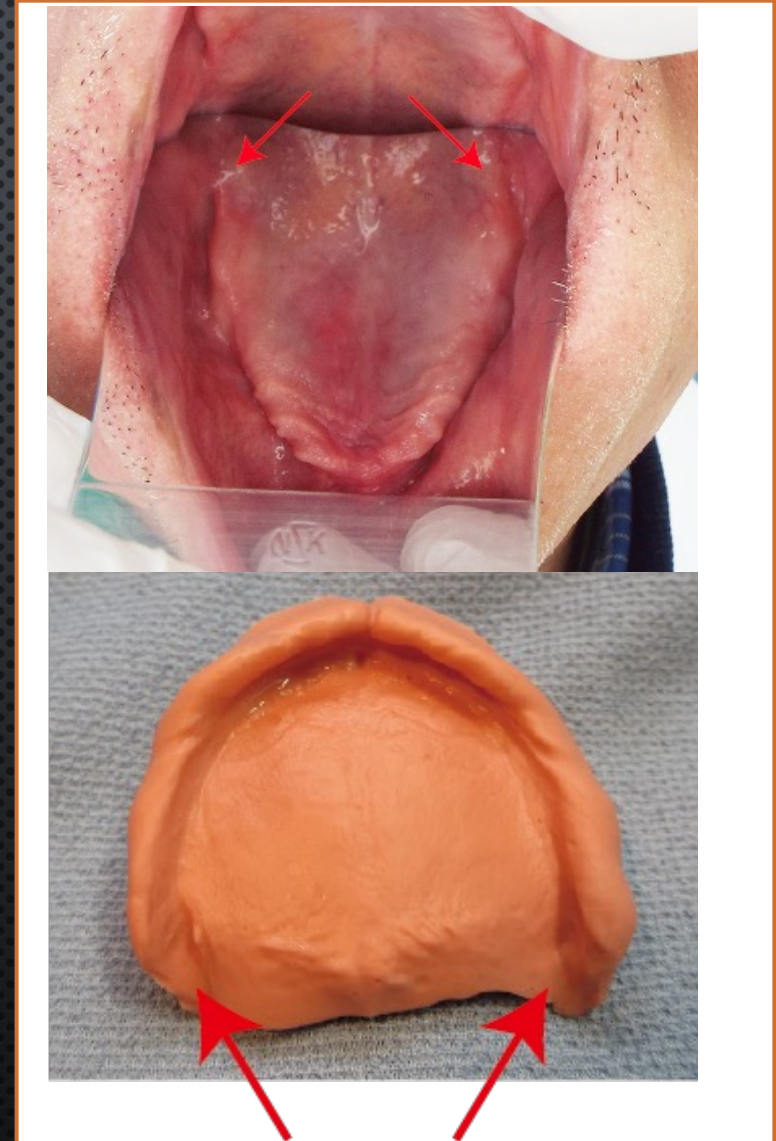
上顎無歯顎印象採得

6. 翼突上顎切痕（ハミュラーノッチ）

ハミュラーノッチは、右上の写真が示すように、上顎結節（後述）と蝶形骨翼状突起内側板の翼突鉤の結合部に形成された切痕です。

ハミュラーノッチは上顎義歯の後縁の位置を決める際の日印として利用されます。この切痕部は、筋肉や靭帯がないことから、加圧が可能な領域です。そのため、義歯の後縁封鎖は、この最深部に設定します。

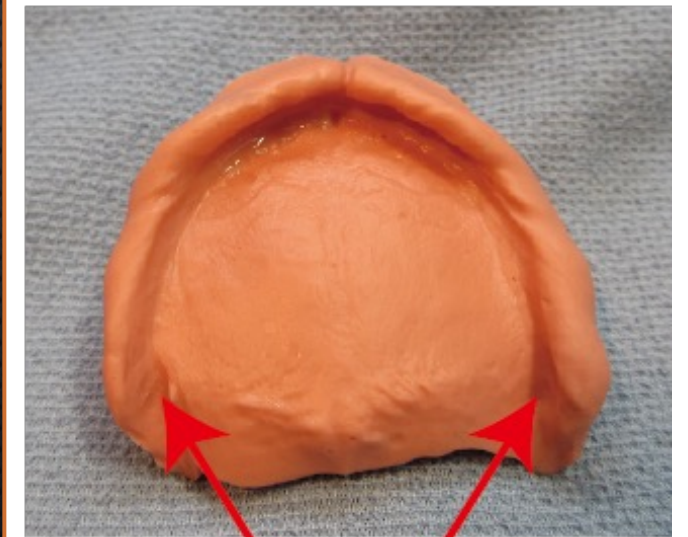
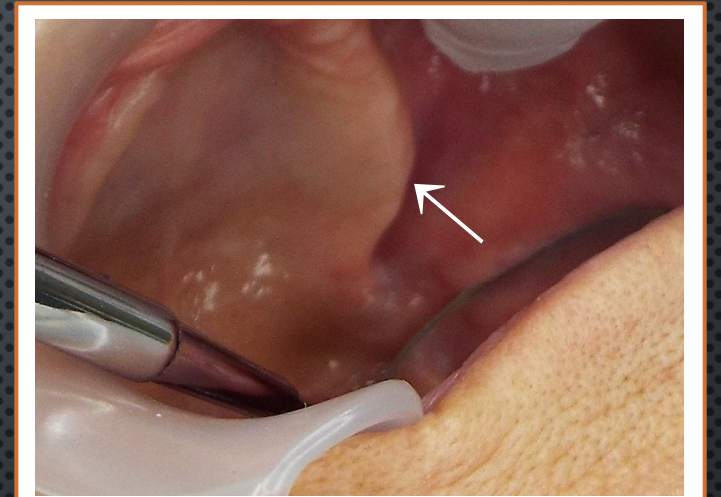
以上のことから、上顎無歯顎印象採得に際して、ハミュラーノッチが適切に印象されているかどうかをもっとも重要なチェックポイントの一つとなります。



上顎無歯顎印象採得

7. 上顎結節

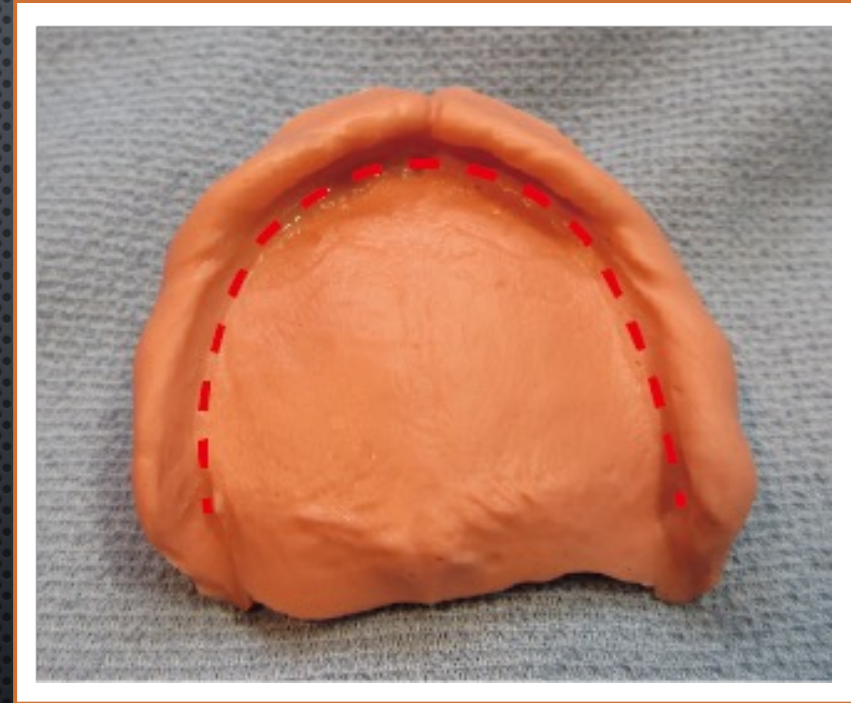
上顎結節は、右上写真の矢印が示すように、上顎歯槽突起の遠心端の隆起部です。頬前庭の粘膜翻転部と翼突上顎切痕に隣接していることから、印象採得の成否を評価する上でガイドとなります。



上顎結節

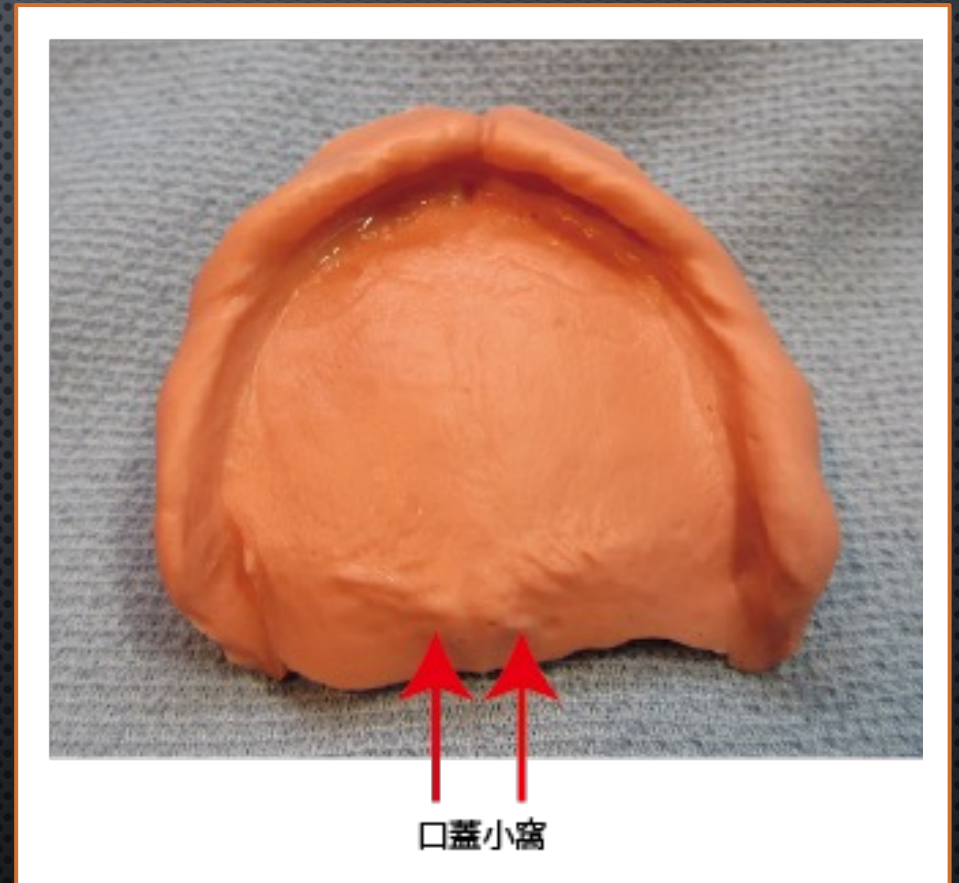
8. 残存歯槽堤

残存歯槽堤は、右写真の破線が示すように、歯が失われることによって形成された堤状の領域です。咬合圧をもっとも負担できる領域です。



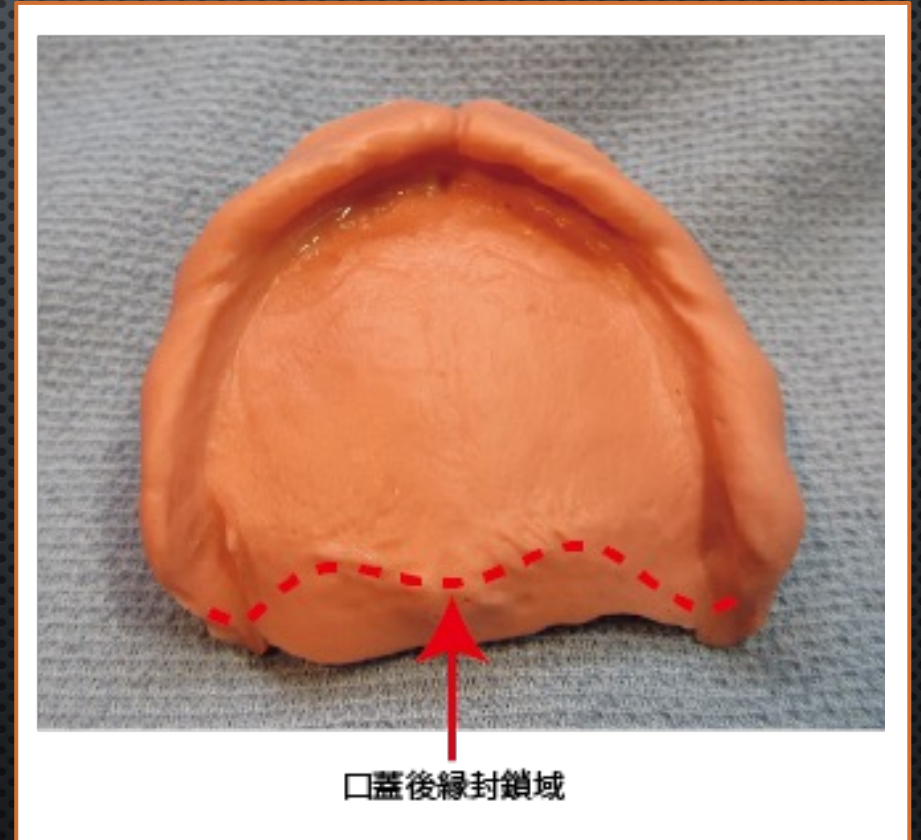
9. 口蓋小窩

口蓋小窩は、右写真の矢印が示す数種の粘液線管の癒合によってできたくぼみで、軟口蓋の正中線付近に一対あります。口蓋小窩は軟口蓋上に存在することから、義歯の後縁は口蓋小窩の前方1～2ミリのところに設定します。



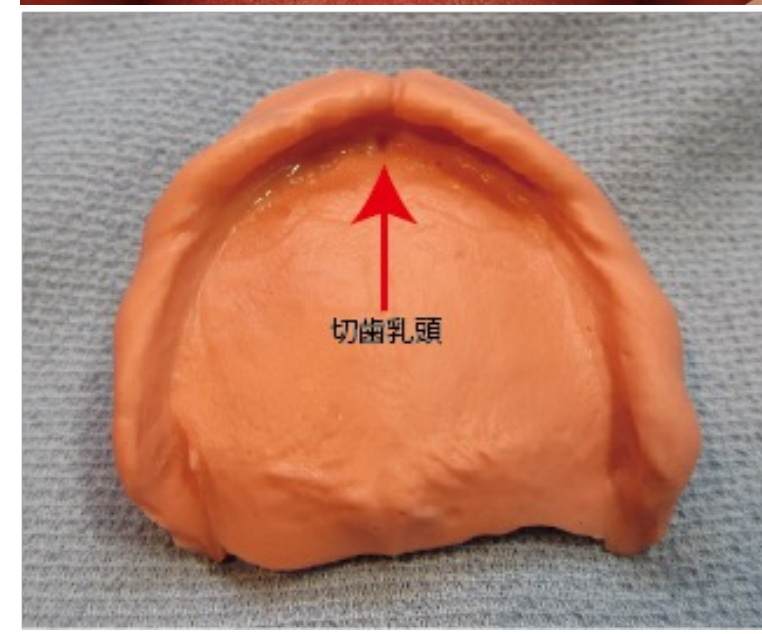
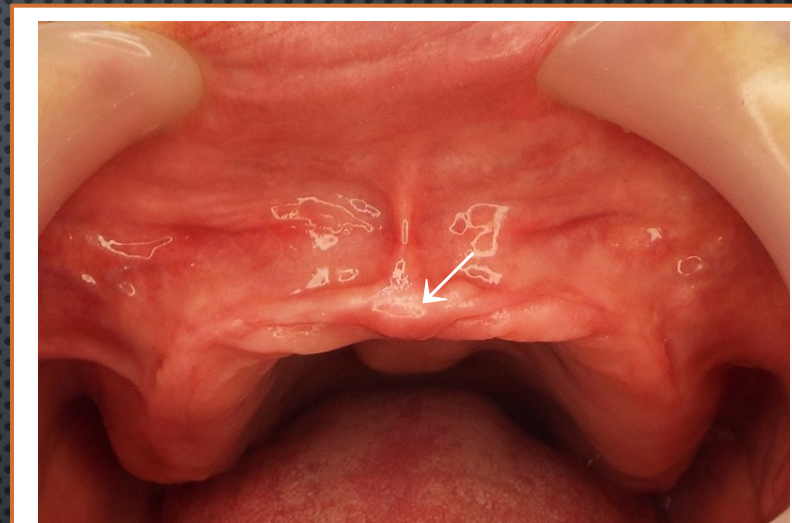
10. 口蓋後縁封鎖域

口蓋後縁封鎖域とは、右写真の破線が示すように、軟口蓋が動きはじめる一定の幅をもった領域です。患者が「アー」と言ったときに口蓋の動きを確認できます。義歯の後縁はこの領域に設定されるので、この領域が印象されているかどうかはとても重要です。



11. 切歯乳頭

切歯乳頭は、右上写真の矢印が示すように、中切歯間のすぐ後ろの正中線上に位置しております。切歯乳頭は、鼻口蓋血管と神経が通っている鼻口蓋管の開口部(切歯孔)を覆っております。切歯乳頭は、前歯人工歯配列位置の基準として利用されます。



【歯科開業医の談話室 01】

上顎の無歯顎印象採得



引用文献

- 1) Boucher, C.O., Hickey, J.C. and Zarb, G.A. :Prosthodontic treatment for edentulous patients 7th ed., 107~157, C. V. Mosby Company, Saint Louis, 1975.
- 2) 外川正:無歯顎顎堤模型の解剖学的ランドマーク間の計測, 日本補綴歯科学会雑誌 51巻3号 469-479, 1993.
- 3) 外川 正:改良型日本人用試作無歯顎用トレーの評価, 平成16年度日本補綴歯科学会 東北・北海道支部総会ならびに学術大会:15, 2004.
- 4) 外川 正:無歯顎顎堤計測値の統計分析に基づく無歯顎用試作トレーの評価, 日本補綴歯科学会雑誌 51巻116回特別号平成19年5月 国際補綴歯科学会神戸2007:131, 2007.

今回の記事を気に入っていただければ👍をクリックしてください。
質問あるいは疑問がある方は、下の公開コメント欄にお書き下さい。
よろしければチャンネル登録をお願いいたします。

次回の記事は、歯科開業医の談話室2番目「下顎の無歯顎印象採得」です。

その他の著書

